



昭和女子大学
現代ビジネス研究所
Institute of Current Business Studies

News Letter

昭和女子大学 現代ビジネス研究所 |-----| ニュースレター |

10

Column

世界に売れる日本のテレビドラマを

昭和女子大学現代ビジネス研究所
所長 八代 尚宏

アマゾンプライムやネットフリックスの会員になると、海外の主要なテレビドラマが見放題になる。個人の好みにもよるが、ホワイトハウスの内幕を描いた政治ドラマや、企業買収をめぐる弁護士の法廷闘争等、何度見ても飽きないシリーズに事欠かない。これに対して日本では、刑事、恋愛、医療等、分野の違いはあっても、もっぱら人気のある俳優に依存して、筋書は二の次になる場合が多い。

これは、主な収入をスポンサーからの広告収入に依存する日本の放送局主導型のドラマでは、何よりも国内視聴者からの反発を受けないことを重視する。これに対して、もっぱら世界市場での販売額に依存する米国のネットビジネスでは、コンテンツの独自性がカギとなるためという解釈がある。

日本のテレビドラマの競争力を高めるためには、現行の「放送の中立性」を定めた規制を見直し、そうした制約のない通信（ネット）と一体化する「放送と通信の融合」がある。しかし、そうした規制改革に対しては「放送の質が低下」という反対論が根強い。確かにネットの世界は玉石混合だが、そうした中で質の高い番組も生まれる。政府に規制して貰わなければドラマの質を維持できないというのはトランプ型の保護主義である。これが夏休みにまとめて見たいような、尖ったドラマが日本で生まれ難い一つの要因ではないか。

Event

ICAS-SWU Joint Seminar How Can Japan “Activate” Women?

6月12日(火) テンプル大学のInstitute of Contemporary Asian Studies (ICAS)と、現代ビジネス研究所でジョイントイベントを開催した。タイトルは、「How Can Japan “Activate” Women?」で、OECD東京センターの村上由美子所長と、本学グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科今井章子教授にご講演をいただいた。

講演後、ICASのロバート・デュジャリック所長がモデレーターとなり、ホールを含めたディスカッションを行った。スウェーデンのマグナス・ローバック大使や、アイスランドのエーリン・フリーゲンリング大使夫妻もご臨席くださり、ディスカッションにご参加くださった。

本学からは現代ビジネス研究所研究員や教員に加え、48名の学生が参加した。活発な議論が続き、1時間のディスカッションタイムが、とても短く感じられる盛況ぶりであった。

ジェンダーギャップ指数1位のアイスランド大使から、「私たちもとても時間がかかったが、あきらめないことが大切だ。夢を持って、夢を追いかけてほしい」と学生にエールをいただいた。

参加した本学の学生たちは、とても勇気を持つことができたと目を輝かせていた。また、大人がたくさんいる中で、臆することなく質問をするテンプレ大学の学生に、大いに刺激を受けたようで、質問力を身に付けたいと話していた。今後もこのようなジョイントイベントを多く開催していきたい。(現代ビジネス研究所事務局長 小森亜紀子)



▶ 研究セミナー

日時：2018年6月23日(土) 16:00～17:30

場所：8号館5L44教室

講師：昭和女子大学現代ビジネス研究所特別研究員・前所長、
久留米大学理事、経営学博士 久原 正治氏

「アメリカの経済・経営を考える－映画を見れば違いが分かる－」

久原現代ビジネス研究所前所長の研究テーマのひとつである経営戦略の分析を、誰もが触れる機会がある映画という手段を用いてわかりやすく解説した。留学、駐在とアメリカに深くかかわることがあった久原前所長は、研究者になる前から現地での生活と映画を通してアメリカの経済・経営の仕組みを理解してきた。これらの経験から日米の映画を比較することで、普段は意識することが少ない日米の経済や経営の違いをより深く理解できることをアドバイスした。

「映画は時代を映す鏡」では、各時代を象徴する映画の紹介を通してアメリカ経済の変遷を解説し、「日米の資本主義の違い」「日米の警察の違い」「専門組織の差」等の日米比較では、各テーマにあった日米の代表的な映画やドラマの比較を通して日米の文化や組織の違いを具体的に解説するかたちで進み、多くの映画を見てきた久原前所長ならではの講演内容であった。また、例として紹介する各映画については、簡単なあらすじを解説するとともに、映画の紹介動画を視聴しながら進むため、映画ファンではない聴講者にもわかりやすいものであった。

聴講していた学生からは、日米の経営組織の相違として紹介されたアメリカの典型である「ジョブ型雇用」と日本の典型である「メンバーシップ型雇用」の比較に対して、「ジョブ型とメンバーシップ型の中間にあたる雇用や他のタイプはあるか」といった質問がなされた。それに対して、日本でも外資系企業ではジョブ型に近い雇用をしていること、アメリカでも安定的な企業ではファミリー経営を掲げる企業があること等、企業の考え方に合わせてハイブリッド型の雇用タイプがあること等を、久原前所長と八代現所長とのセッション形式でドラマ内でのセリフを引用しながら回答された。

参考までに聴講していない方にも、講演のなかで紹介された日米比較の映画の一部を掲載する。興味を持った方は、各テーマの各作品を見比べ、楽しみながら知的な時間を過ごすきっかけとして頂ければ幸いである。(文責：研究員 宮脇啓透)



テーマ	アメリカ映画	日本映画
資本主義	ウォール街 スティーブ・ジョブズ	空飛ぶタイヤ 陸王(テレビドラマ)
警察組織	BOSCH/ボッシュ(テレビドラマ) ディパーテッド	踊る大捜査線(映画・テレビドラマ) 相棒(映画・テレビドラマ)
専門組織	アポロ13	はやぶさ/HAYABUSA

2017年度プロジェクト活動報告会・交流会

日時:2018年4月14日(土)13:30~17:00

会場:8号館コスモスホール

新年度を迎えた4月14日、2017年度の研究助成金採択プロジェクト10件の研究報告会を開催しました。研究員間の共同研究や、本学学生との協働研究等、一年間の研究成果が発表され、終了後には今年度入所の新規研究員を迎えて所員・研究員交流会を行いました。

<助成金採択者発表>(発表順) ※()内はアドバイザー教員

- ◇柳川伸二研究員 (チャン・マーク) 「国際協力をはじめよう」
- ◇甲賀聖士研究員 (小森亜紀子) 「ソーシャルビジネスにおける女性参画の実態と『ジェンダー意識』『社会貢献意識』に関する研究(第2年次)」
- ◇江口智子研究員 (飴善晶子) 「コミュニティビジネスのイノベーション戦略—山梨県のワイナリーにおけるテイスティングルームマネジメント—」
- ◇西村美奈子研究員 「企業に働くマチュア世代の女性のセカンドキャリア意識調査とニーズ分析研究(第2年次)」
- ◇青山大蔵研究員 「ソーシャル・ベンチャーにおける女性起業家のリーダーシップ醸成プロセスに関する研究」
- ◇大嶋淳俊研究員 (磯野彰彦) 「東北復興支援のためのPBL手法による観光促進に関する研究—いわき湯本温泉の活性化—」
- ◇熊坂敏彦研究員 「『地場産業』を中核にした『地域創生』についての研究—『循環型地場産業』の事例研究—」
- ◇渡辺修一研究員 (磯野彰彦) 「インバウンドビジネスにおける成功要因の考察—日越間のケース—」
- ◇段谷憲研究員 (不破眞佐子) 「大規模震災発生時のための食料備蓄と非常食レシピに関する防災教育教材開発に関する研究」
- ◇鶴沢真研究員 (天笠邦一) 「フリマアプリのマーケットデザイン—フリマアプリ(メルカリやフリル)での買い物行動に関するアンケート調査—」



研究員サロン

現代ビジネス研究所では、年間を通して「研究員サロン」を開催しています。研究員の研究報告、学生のプロジェクト参加報告、また本学教員による専門分野についてのレクチャーなど、内容は多岐に渡ります。

「Women@Diorから得たこと
—Christian Dior国際ミーティング@Paris参加報告—」

日時:2018年7月20日(金)19:00~20:30

講師:英語コミュニケーション学科4年
市川 実咲



「『ローマ人の物語』(塩野七生 著)で
経済を読み解く」

日時:2018年8月23日(木)19:00~20:30

講師:現代ビジネス研究所副所長
飛田 史和教授



助成金採択プロジェクト

現代ビジネス研究所では、研究員の研究活動を支援するために、優れた研究に対して研究経費の一部を助成しています。学生と協働するプロジェクトには本学教員がアドバイザーとして参加し、学生は実務経験豊富な研究員と共に実践的な学びを深めています。これまでの活動状況は現代ビジネス研究所ホームページで公開している「紀要」でご覧いただけます。

研究員	研究テーマ
江口 智子	山梨県ワイン産業における人的資源プロファイルに関する現況調査
大嶋 淳俊	東北復興支援のためのPBL手法による観光促進に関する研究 ーいわき湯本温泉の活性化ー Part 2
大本 郁子	ジュヌヴィエーヴ・ダリオ著の『エレガンスの事典』から考察するファッションにおけるヨーロッパエレガンスの原点と女性の生き方について
金森 史枝	社会で活躍できる女性の特性分析
木村 誠	昭和女子大×日本酒蔵元×ミシュランレストラン
熊坂 敏彦	「地場産業」を中核にした「地域創生」についての研究 ー「循環型地場産業」の事例研究(2)ー
甲賀 聖士	ソーシャルビジネスにおける女性参画の実態と「ジェンダー意識」「社会貢献意識」に関する研究(第3年次)
澄田 知子	大学における主権者教育の実践 ー“19歳選挙権”について考えるー
高橋 恵子	子どもの自立、職業選択における家庭の果たす役割についての研究
段谷 憲 (共同研究)	ローリングストックと非常食レシピの最適化に関する研究
鶴沢 真	シェアリングエコノミーの発展とその機能 ーフリマアプリの機能と利用者行動に関する調査分析 ー
豊永 眞美	フランスに漫画を売り込んでみる
中村 政美	企業のサステナビリティ情報が企業価値に及ぼす影響について
西村 美奈子 (共同研究)	マチュア世代の働く女性のセカンドキャリア支援の現状とビジネスニーズ分析の研究
根橋 玲子	燕三条地域の加工技術とグローバル優位性ー産業集積を支えるものづくりのDNAを探るー
村井 貴	VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)コンテンツを活用したサイエンス・コミュニケーション向けの教材開発
柳川 伸二	昭和女子大学生の国際志向性に関する意識調査 ー「グローバル人材」の育成に向けた現状と課題ー(第5年次)
横田 彰	人工知能を活用した女性の働き方改革及びキャリア開発に関する研究

現代ビジネス研究所認定 教員主導型プロジェクト

現代ビジネス研究所では、主に外部団体とコラボレーションした教員主導型のプロジェクトについても、2017年度より研究所のプロジェクトとして認定しています。現在稼働中のプロジェクトは以下の通りです。

実施期間	プロジェクト名	概要	協力団体	担当教員
2018年2月 ～2019年3月	「女子大生が恋する!」 井の頭線プロジェクト	井の頭線の渋谷・吉祥寺を除く15駅を対象として、モノ消費ではなくコト消費の仕掛けを構築し、PR活動に留まらない、継続性のある「まちとつながり」「人を動かす」仕掛けづくりを行う。	京王電鉄株式会社	高木 俊雄 小森 亜紀子
2018年6月 ～2019年3月	海陽町自然+しごと+防災ツーリズム事業 海陽町×昭和女子大学 地域創生プロジェクト	過疎化の進む自治体への移住促進のために、海陽町の魅力発見および発信を行う。	徳島県海陽町	高木 俊雄
2018年6月 ～2020年6月	アサヒ飲料×昭和女子大学 「健康チャレンジ」プロジェクト	アサヒ飲料および沖縄県自治体と共同し、主に健康飲料の継続飲用を通して、健康および地域に着目した調査や、調査を踏まえた施策のヒントを探す活動を実施する。	アサヒ飲料株式会社	高木 俊雄
2018年8月 ～2019年3月	三菱鉛筆新製品調査・ 開発プロジェクト	女子中高大学生が文具に対してどのようなニーズを持ち、どのようなプロセスで購入するかについてアンケートやインタビュー調査を行い、そのうえで彼女らのニーズに合う、また新たなニーズを生み出す文具を開発する。	三菱鉛筆	高木 俊雄
2018年8月 ～2018年12月	Amazon Prime Student プロモーションプロジェクト	大学生に対するAmazon Prime studentのプロモーション施策を策定および実施する。	Amazon Japan	高木 俊雄